

「至福の家」

■マンション概要

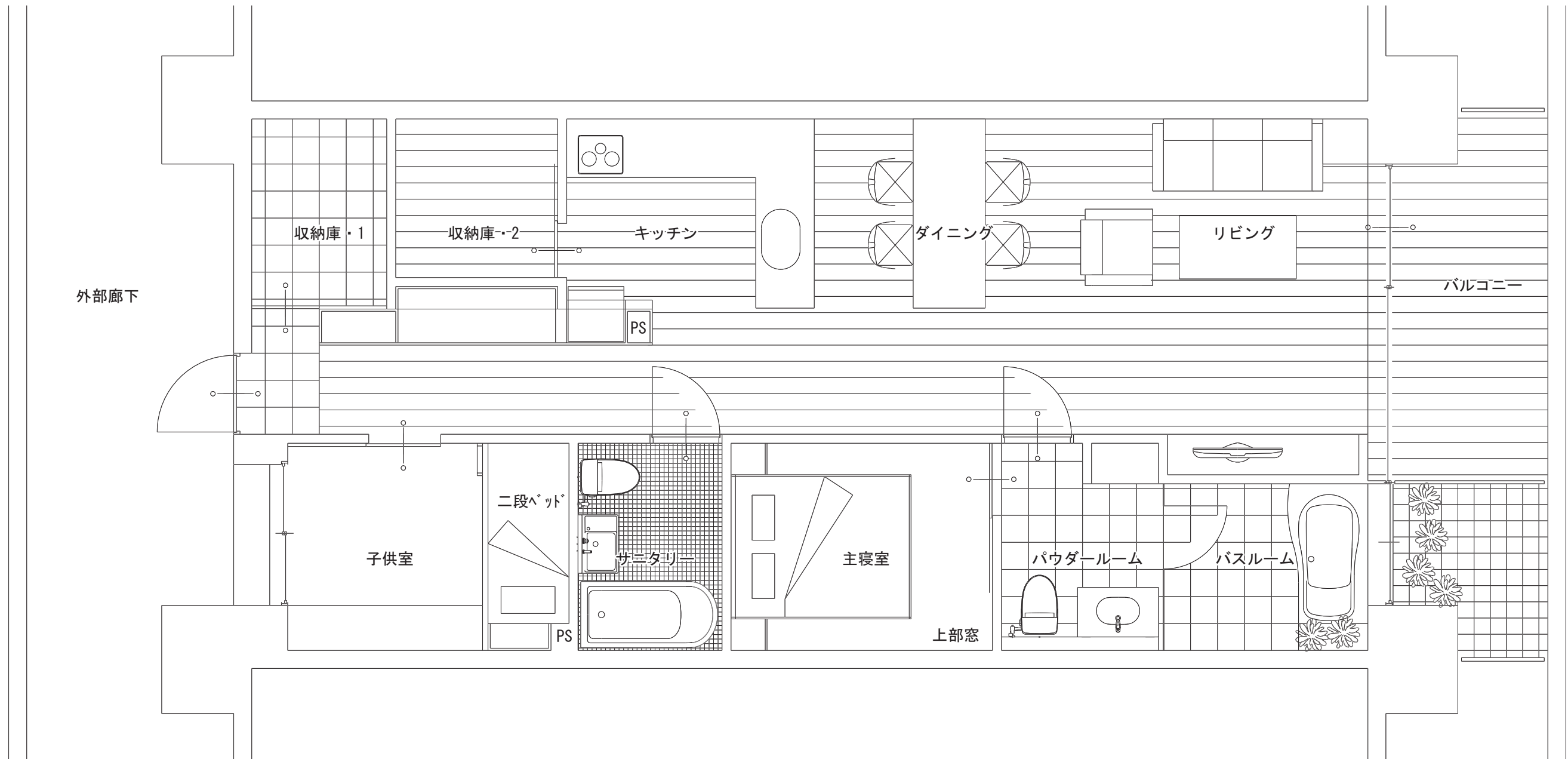
東京世田谷区
地上 10 階建 -903
専有面積 75.88 m²

■家族構成

父 村上 夏樹 (40)
母 茉莉花 (37)
長女 蘭 (12)
次女 蓮 (11)

■コンセプト

要望は、シンプルだった。「9階から見える景色を眺めながらバスタイムを楽しみたい。」
「まだ小学生だが女の子が2人いることから、将来の朝のパウダールームがごった返すことを考えてトイレ、洗面、浴室を二つ欲しい。」この答えもシンプルに対応することが適切に思えた。玄関から長手方向に2分割に分け片側に子供部屋、主寝室そして二つのサニタリーを設け、家族の集まるLDKを出来る限り広くとった。家具などもご主人の要望から極力少なくし収納も必要以上に設けないようにした。南のバルコニーに面するバスルームは、朝日を取り入れるように、LDKには西陽を少しでも遮るようにと配置と格子を考えている。個室とLDKを分ける壁・扉には、木を張ることで奥行きが増し、個室の存在感は消えている。コンセプトとしては、今回の働く女性にとっては、家事や子育てのことを包み込む時間（至福）である。



わたしの朝は、子供たちを小学校に送り出してから始まる。

もちろん、子供たちに朝食を作って一緒に食べたり、身支度の手伝いをしたりは、そのまえからしてるけど・・・ひとりになってから出勤するまでは、ゆうに二時間はある。

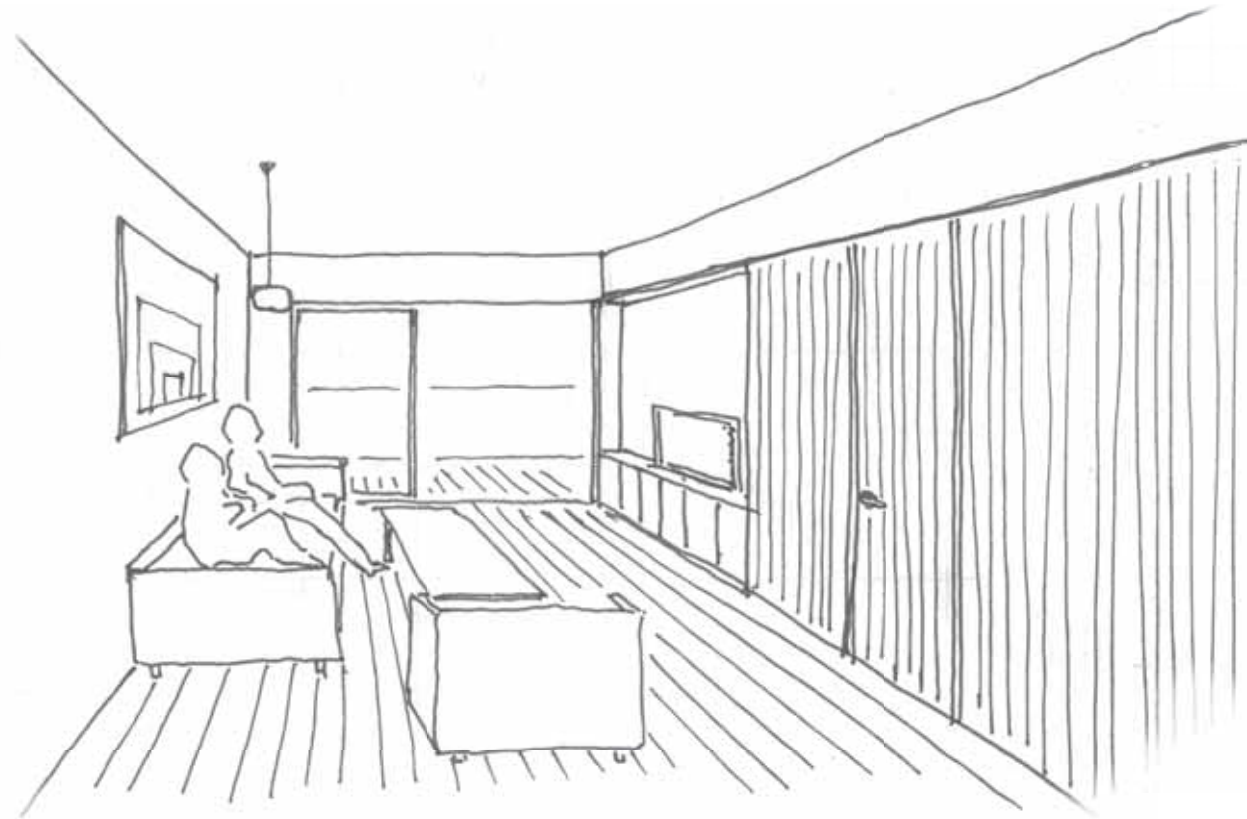
まず、南面に面するバスルームにお湯を張って、朝日を格子越しに浴び、遠くに見える高層ビルを眺めながら、ゆっくりと入る。ほとんど毎日見ているけど、一向に飽きそうにない。たぶんこの先も、夫といえば、グアム、サイパンでホテルを経営している。最近は、バリでも中古の物件を探しているようだ。そのためだと思うのだけど、ほとんど出掛けていて、めったに会うことはない。お互いあまり干渉しないこの関係が心地いい。子供たちとは、ネットのテレビ電話なるもので、毎日会話している。よくお互い話すことがあるものだ。もう少し夫の話をすると、めったに帰ってこないくせに、帰ってきたときに家が片付いていないと、必要以上に怒る。この住宅のデザインは、ほとんど建築家と夫で決めたものだ。玄関から延びる木の壁と大きな窓がすごく印象的で私も気に入っている。私の要望は、浴室とトイレを二つ欲しいと言っただけ。子供たちのことを考えると、この要望だけは譲れなかった。

子供たちは、小学校六年生と五年生の女の子。いまどきなのか、かなりオシャレを気にしている。ケンカもよくするが、オシャレのこととなると、やけに気が合って仲がいい。一応、個室が欲しいかと聞いてみたが、それよりも私同様に浴室とトイレが二つあるほうがよかったようだ。不満をいえば、私たちの部屋のように自分たちの部屋に欲しかったと言っている。

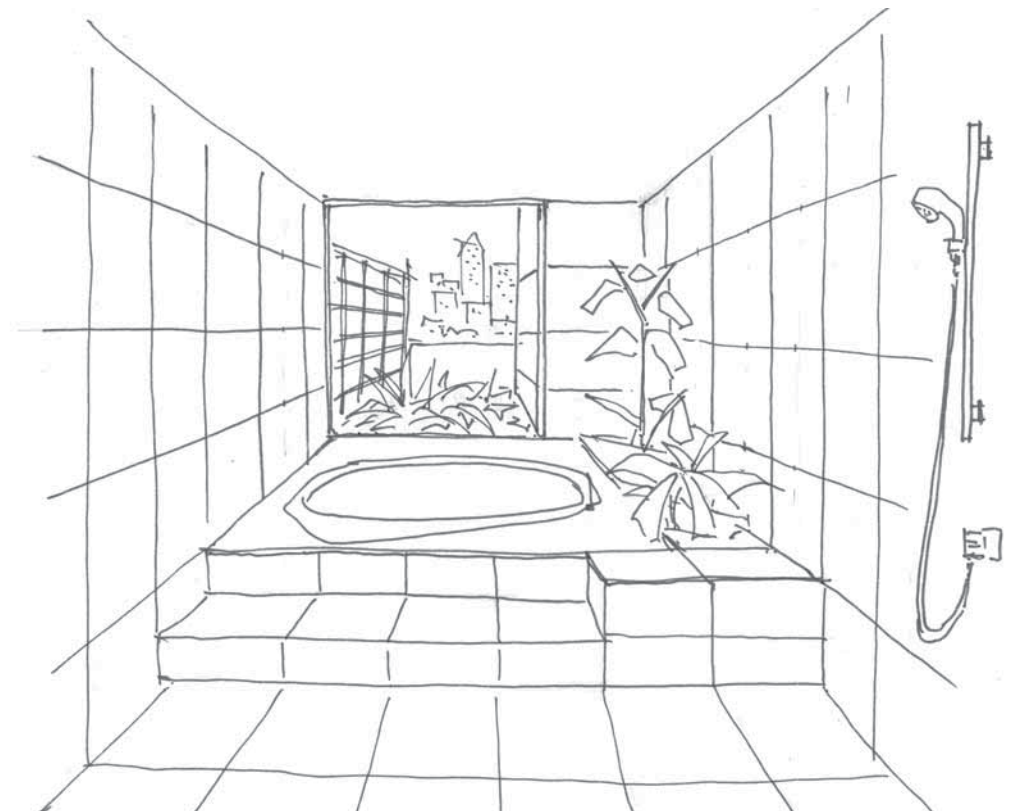
仕事は、弁護士をしている。小さい頃からの夢で、自分で言うものなんだが、かなり勉強を頑張って、大手の事務所に勤めていた。何かのきっかけで、仲間と二人で事務所を立ち上げて、今は、選んでいるわけじゃないけど、簡単な物件を多く抱えて慌ただしくしている。大きな物件を抱えるよりも、バタバタと動いているほうが、お互い合っていて充実している。事務所の場所は、家を片付けておくことを考えると仕事は持つて帰ることは出来ないし、夕食の準備や家事を終えての残業を考えて、歩いて五分もかからない所に借りている。

夜、時間がないときは、シャワーで済ませるが、夜景を見ながら入るお風呂は、朝のお風呂の次に好きな時間だ。子供たちは、この時間が一番好きらしい。

彼女たちは、朝のお風呂の気持ちよさは、まだ知らない。



リビング すけっち



バスルーム すけっち